

ペプチド性苦味成分の酵素分解

技術の特徴

- * **アエロモナスアミノペプチダーゼ**は蛋白質加水分解物の**苦味を除去**する
- * **アエロモナスアミノペプチダーゼ**は、まず、**活性の弱い前駆体蛋白**として生合成される
- * 前駆体蛋白の**プロ領域**は酵素**活性の抑制**や酵素の**正しい折り畳み**に重要な役割を担っている
- * 前駆体蛋白に**PAプロテアーゼ**を作用させると、**活性の強い成熟アミノペプチダーゼ**が生成する

研究の内容

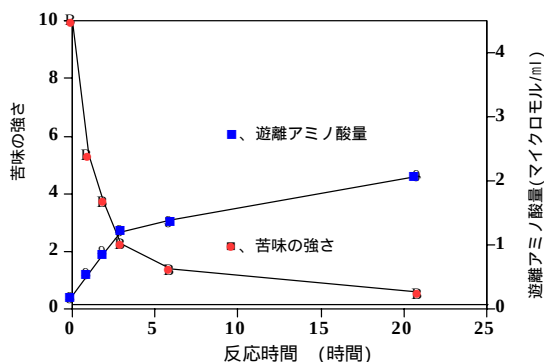
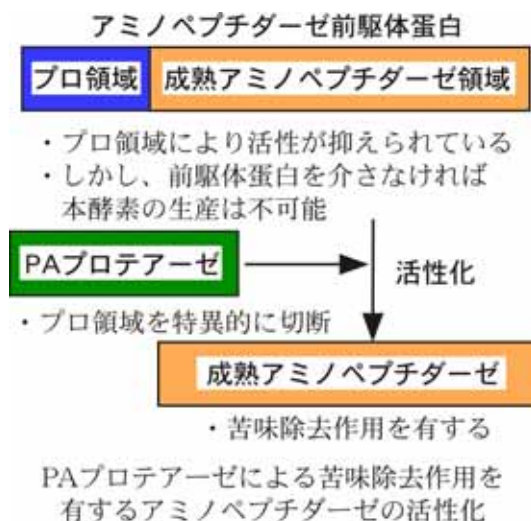


図 アミノペプチダーゼ処理による苦味の減少過程

●、苦味強度；▲、遊離アミノ酸量
使用酵素量はペプチドの1/8000(重量比)
大豆タンパク由来の苦味溶液の苦みの減少



今後の展開

これまで苦味が発生し、実用化できなかった分野での利用
低アレルギー素材開発、消化性向上タンパク分解物調製、酵素添加による各種発酵食品(チーズ、味噌)の熟成促進、調味液の調製等の分野への適応が期待できる。

参考

- (1) Tang B, et al., Biochem Biophys Res Commun. (2003) 301, 1093
- (2) Tang B, et al., Biochem Biophys Res Commun. (2002) 296, 78
- (3) Zhang ZZ, et al., Biochem J. (2000) 350, 671
- (4) Nirasawa S, et al., Biochim. Biophys. Acta (1999) 1433, 335
- (5) Nirasawa S, et al., Biochem J. (1999) 341, 25
- (6) Izawa N, et al., J. Agric. Food Chem. (1997) 45, 4897
- (7) Izawa N, et al., J. Agric. Food Chem. (1997) 45, 543



代表研究者: 荻澤 悟
所 属: 生物機能開発部 酵素機能研究室
問い合わせ先: 〒305-8642

茨城県つくば市観音台2-1-12